

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

キュポラから高周波誘導炉への溶解炉の
変更による CO2 排出削減事業

排出削減事業者名：株式会社 イトー鋳造

排出削減事業共同実施者名：丸紅 株式会社

その他関連事業者名：

目次

1	排出削減事業者の情報	2
2	排出削減活動の概要	2
2.1	排出削減事業の名称	2
2.2	排出削減事業の目的	2
2.3	温室効果ガス排出量の削減方法	2
2.4	国内クレジット認証要件の確認	2
2.5	承認排出削減事業計画からの変更項目	2
3	排出削減活動期間	2
3.1	プロジェクト開始日	2
3.2	モニタリング対象期間	2
4	温室効果ガス排出削減量	3
4.1	採用した排出削減方法論の情報	3
4.2	活動量	3
4.2.1	活動量・原単位	3
4.2.2	活動量の採用根拠	3
4.3	事業の範囲（バウンダリー）	3
5	モニタリング対象指標	4
6	モニタリング体制	5
6.2	モニタリング対象指標の QA/QC	5
7	排出削減量の計算	6
7.1	事業実施後排出量	6
7.2	ベースライン排出量	6
7.3	リーケージ排出量	6
7.4	温室効果ガス排出削減量	6
8	省エネルギー量	6

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	株式会社 イトー鑄造
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	(株)イトー鑄造 川尻工場
住所	秋田市川尻町字大川反170-73
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）（	
排出削減事業 共同実施者名	丸紅株式会社

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

キュポラから高周波誘導炉への溶解炉の変更による CO2 排出削減事業

2.2 排出削減事業の目的

イトー鑄造川尻工場ではコークスを燃料とするキュポラ溶解炉を利用しており、燃焼時には二酸化炭素を含む排出ガスが多量に発生している。このキュポラ溶解炉から、高周波誘導炉に変更することにより、CO2 排出量を削減するものである。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

コークスを燃料とするキュポラ溶解炉から高周波誘導炉に変更することによって、CO2 排出量を削減する。

2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

特になし

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

2008年5月16日

3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2008年5月16日 ～ 2009年12月31日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
003	工業炉の更新

4.2 活動量

4.2.1 活動量・原単位

対象	活動量	原単位
ベースラインエネルギー 使用量	生産量	エネルギー使用量
		生産量

4.2.2 活動量の採用根拠

本事業において導入される高周波誘導炉は、製品を生産する都度運転され、電力が消費されるものである。従って、エネルギー使用量は、生産量に連動することから、生産量を活動量として採用した。

4.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業のバウンダリーは、燃料供給設備及び更新される工業炉とする。

5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更ある場合、 変更理由)
$F_{\text{fuel, pj}}$	事業実施後（燃料転換後）燃料（電力）使用量	kWh	6,207,400	電力計による計測 電力計：三菱電機 PC-11B	
$HV_{\text{fuel, pj}}$	事業実施後（燃料転換後）燃料（電力）の単位発熱量	GJ/kWh	3.60×10^{-3}	デフォルト値	
活動量	事業実施後生産量（活動量）	t	6,586	実測値：生産実績表	
	事業実施前生産量（活動量）	t	5,028	実測値：生産実績表	
$F_{\text{fuel, BL}}$	事業実施前（燃料転換前）燃料（コークス）使用量	kg	1,114,787	実測値：三明機工(株) 300Kg 秤量台車	
$HV_{\text{fuel, BL}}$	事業実施前（燃料転換前）燃料（コークス）の単位発熱量	MJ/kg	29.4	デフォルト値	
$CF_{\text{fuel, BL}}$	事業実施前（燃料転換前）燃料（コークス）の単位発熱量あたりの炭素排出係数	t-C/GJ	0.02938	デフォルト値	
$CF_{\text{electricity}}$	電力の炭素排出係数	tC/kWh	0.0000915	2008年度全電源平均排出係数	

6 モニタリング体制

6.2 モニタリング対象指標の QA/QC

データの種類	QA/QC 手順（該当手順の無い場合、その理由を記載すること）
活動量	
F _{fuel, pj}	<p>設置された電力量計による実測。高周波炉操業記録をもとに、毎月製造管理部長が纏める。なお、電力量計による計測結果は、以下①～③の手続きによって電力会社からの請求書と比較し確認できる。この結果はエネルギー使用実績として記録される。</p> <p>①高周波誘導炉に付属の電力量積算計の数値を毎日運転日報に記入する。</p> <p>②1ヶ月間の電力量を集計する。</p> <p>③高周波炉以外の電力量は既知であるため、毎月電力会社からの請求書から高周波炉以外の電力量を差し引き、積算計の集計値と比較する。</p>
活動量（前後）	社内管理システムによる実測値
F _{fuel, BL}	社内管理システムによる実測値
単位発熱量	
H V _{fuel, pj}	該当文献を確認し、採用している数値の確認を行う
H V _{fuel, BL}	該当文献を確認し、採用している数値の確認を行う
排出係数	
C F _{fuel, BL}	該当文献を確認し、採用している数値の確認を行う
C F _{electricity}	該当文献を確認し、採用している数値の確認を行う

7 排出削減量の計算

7.1 事業実施後排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
6,207,400 [kWh]	—	0.0000915[tC/kWh]	2,082
EMPj			2,082

7.2 ベースライン排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
電力 : 6,207,400 [kWh] コークス : 1,114,787 [kg] 生産量 (後) : 6,586 [t] 生産量 (前) : 5,028 [t]	3.60×10^{-3} [GJ/kWh]	0.02938[tC/GJ]	4,620
EMBL			4,620

7.3 リークージ排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
LE			0

7.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	<i>EMBL</i>	4,620
事業実施後排出量 (7.1)	<i>EMPj</i>	2,082
リークージ排出量 (7.3)	<i>LE</i>	0
温室効果ガス排出削減量	<i>ER</i>	2,538

8 省エネルギー量

原油換算 [kℓ]		
ベースライン (①)	実績 (②)	ベースラインー実績 (①ー②)